

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2019年5月22日

No.19

人事制度改正後の最初の期末手当である 組合員の期待は非常に大きい！！

～2019年度 夏季手当第2回交渉報告～

中央本部は、本日10時00分より第2回交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. コンテナ輸送の4月の収入動向は、気温がなかなか上昇せず飲料・ビールの需要が伸び悩み低調に推移したほか、紙・パルプは国内需要減少と一部工場の不具合により減送となった。また、自動車部品は一部メーカーの販売不振や、九州～東海の積合せ貨物等、当初見込んでいたものよりもゴールデンウィーク直前期の輸送が急激に落ち込んだことが影響し、対計画△199百万円(98.1%)となった。
2. 車扱輸送については4月の気温が低かったことから、灯油を中心に好調な荷動きとなった。また、行楽需要にむけた揮発油の送り込みが好調となり、車扱全体で対計画+91百万円(109.2%)となった。コンテナ及び車扱の合計は対計画△108百万円(99.0%)となった。
3. 今年度に入り、1227億円の収入目標にむけて進めている。2年前の1150億円よりハードルは高くなっているが、運賃改訂の効果などがあり決して届かない数字ではない。5月に入って名古屋南貨物から北九州にむけた自動車部品が出ており収入増となっている。

【関連事業部門】

1. 昨年度、鉄道補完事業は東京レールゲートWESTの建設工事の推進を最重点に取り組み、大型物件の賃貸契約更新時の賃料減額回避に努めたが、東京(夕)エフプラザA・B棟の段階的賃料減額等が約定されたため減収となり、全体で対前年1.0億円減の133.0億円となった。
2. 今年度は、年度末の東京レールゲートWEST賃貸開始にむけて最重点に取り組み、新規貸付の拡大や既存物件の賃料維持、業務費・修繕費を的確に執行していく。関連事業では磐田分譲マンション、新小岩分譲マンション、旧竜華寮用地開発等による増収を着実に進め、計画達成にむけて取り組む。

【組合の主張】

1. 昨年度の山陽本線の100日間不通の後、荷物が完全に戻っていないとされながらも運賃改訂効果が出ており収入は確保できている。経常黒字140億円をめざすのであれば、新しい人事制度が夏季手当に反映されない制度であってはならない。
2. 4月からは人事制度や制服も変わっている。家族手当を加えた要求方法に変えた理由を考えるべきである。人事制度改正後の最初の夏季手当であり組合員のモチベーションを上げるためにはどのように報いるかである。夏季手当に対する期待は非常に大きく、要求に対して真摯に交渉に臨むこと。

【会社の回答】

1. 社員のやりがいとモチベーションを向上させるためにも、引き続き真摯に交渉に臨む。
2. 回答は基準内賃金×月数で答えていきたいと考えているが、要求を変えた根拠を受け止め社内で議論していく。貴組合の要求根拠を受けてから会社の考え方を示す。その中で議論を積み上げていきたい。

最後に中央本部は当期純利益は赤字だと言いながら今年度の計画は強気な黒字を出しており、昨年度の赤字は賃金抑制の理由にならないことを指摘し、交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は5月29日(水曜日)です。